

令和7年12月24日

【次世代へ物流の魅力を発信】中学生4名が「広報担当」として物流現場を徹底取材！

職場体験で同世代向けの魅力発信レポートを作成

一般社団法人 日本物流団体連合会（以下「物流連」）は、11月11日（火）から13日（木）までの3日間、東京都立白鷗高等学校附属中学校の生徒4名に対し、職場体験を実施いたしました。

今回の職場体験では、深刻化する物流業界の担い手不足解消に向け、生徒自らが「広報メンバー」となり、中学生の視点で業界の魅力を同世代へ発信するレポート作成に挑戦しました。

■ 実施の背景と目的

職場体験の受け入れは、同校からの「社会での貴重な経験を通じて、働くことの意義を学ばせたい」という要請を受け毎年実施しています。今年は特に、将来を担う生徒たちに「暮らしを支える物流」への関心を持つもらうことを目的に、単なる見学に留まらない「実務型」のプログラムを企画いたしました。

■ 体験内容：中学生が広報担当者から学び、現場へ

生徒たちはまず、物流業界の基礎知識やビジネスマナー、名刺交換などの講習を受け、社会人としての第一歩を体験。その後、会員企業3社の全面協力のもと、普段は立ち入ることのできない中枢施設を取材しました。

【主な取材先と内容】

- 11月11日（火）：佐川急便株式会社「Xフロンティア」
 - 最新の自動化設備や大規模物流センターの裏側を取材。
- 11月12日（水）：日本通運株式会社「羽田空港国際線貨物地区」
 - 世界と日本を繋ぐ航空貨物輸送の最前線を体感。
- 11月13日（木）：日本貨物鉄道株式会社（JR貨物）「東京貨物ターミナル駅」
 - 環境に優しい大量輸送を支える鉄道貨物輸送の役割を学習。

最終日には、取材で得た気づきや発見をまとめ、同世代に物流の重要性を伝えるための成果報告を行いました。

【報告レポート】 詳細はこちらをご参照ください。

<https://www.butasuryu.or.jp/2025report.pdf>

■ 参加した生徒の感想（原文ママ）

「私たちもこの職場体験をする前までは、『物流はモノを運ぶことだな』という風にぼんやりとしかわかつていなかつたけれど、職場体験を経て物流はモノを運ぶことだけではなく、倉庫で荷物を保管したりAIやロボットなどを用いて荷物の整理したりすることや、運ばれる荷物が本当に安全なものなのかをチェックしたりと、私たちが思つてゐる以上に様々なことをやって初めて物流というんだなと思った。また、1つの荷物が届くまでに複雑な工程を行つてから運ばれていゐるのすごいなと思った。通常、物流が届いていなければ、生活に必要な衣服や食料が届かない地域が生まれてしまい貧富の差が生まれてしまうそうだが、現在の日本は物流が行き届いてゐるのでそんなことはありません。そのため、陰で日本を支えてくれている物流は想像以上に私たちの生活に影響しているものであり、決して欠いてはいけない大事なものなんだなと感じた。」

■ 今後の展望

物流連は、今後も学校機関等からの要請に応じ、企業と生徒との接点を創出する活動を継続してまいります。体験を通じて一人でも多くの「物流ファン」を増やし、業界全体の持続的な発展に寄与してまいります。

以上
職場体験担当 伊達

